

新しい観点別評価による「ビジネス教育」の 学習実現状況の把握

徳島県立徳島商業高等学校 杉本 清重

1. いまさらながら、されど観点別評価とは

平成16年・17年度の2カ年にわたり国立教育政策研究所から研究指定を受け、新しい観点別評価による学習実現状況を把握するための研究・実践事業を実施した。従来の授業指導や評価の方法との違いに徳島県立徳島商業高校「ビジネス基礎」担当者の先生方は悪戦苦闘し続けた2年間であったが、その中で体験して得たものを代表して発表する。

まず最初に、授業指導が変わった。ここでその変化を私の例で説明してみる。

本来なら「ビジネス基礎」の内容を例にすべきであるが、説明しやすく、実感していただくために「情報処理」の内容を例に挙げたことを先にお詫びする。

例 「2進数から10進数への変換についての指導」

以前の指導

- (1) 2進数に関する基礎的な知識を教える。
- (2) 2進数の1101を10進数に変換する方法を説明し、答えを導く。

1	1	0	1	
↓	↓	↓	↓	
2^3	$+$	2^2	$+$	2^1
↓		↓		↓
8	+	4	+	0
				+
				1
			
				13

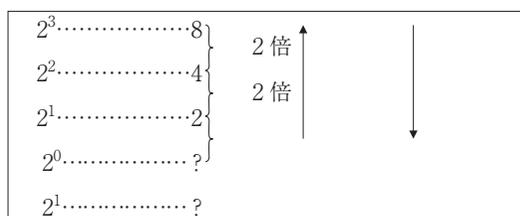
このように「2の0乗のところは1と覚えておきなさい」と指導していた。私自身、2の0乗がどうして1なのか疑問を持っていたが解答を導くことを優先し、生徒に考えさせたり、気づかせたりする努力を怠っていた。これが、知識偏重の授業である。

新しい授業指導

- (1) 2進数に関する基礎的な知識を教える。
- (2) 2進数の1101を10進数に変換する方法を説明し、「2の0乗のところは0ではなくて、どうして1なんだろう」………問いかける。「たしかに2の0乗×1と2の0乗×0とは答えも違うだろうけど」………考えさせる。

次の授業までに調べてくるように（数学の先生に聞いてもいいよ）指示する。

- (3) 次時において説明できるかどうか数人に問う。説明する生徒がいなかったら
- (4) まず、黒板に次のような図を書く。



この図を見てわかることは「2の1乗から2乗、3乗と乗数が増えるごとに2倍になっています。」
「それでは乗数が下がるにつれてどうなっていますか。」………気づかせる。

「そうです。1/2倍になっています。8→4→2となると、次は2の1/2ですから“1”つまり2の0乗は1となります。」"オー"（納得の声）。

「それでは、2の-1乗はいくつかな。もうわかりますよね。」「はい、峯君 答えは。」

以上のような指導が変わった。つまり、

- ① 基礎的な知識を理解させる。
- ② 「なぜ」「どうして」という問いかけから興味・関心を持たせる。
- ③ 変化を気づかせ、その変化の意味を思考させ、何をすべきか判断させる。
- ④ 実際に体験させ技能、わかったことをまとめさせる表現。

このような授業である。どこかでみたような単語が並んでいるが、これが、観点別評価をするための授業方法である。

従来の授業指導を4つの観点で評価しようとするから難しいのである。最初から4つの観点に基づいた新しい指導方法によって授業をすれば、「どの場面で」、「どの観点で評価するのか」教師は自ずからわかってくる。

2. スタートラインは皆、同じではない

これから説明するのは、本校が実践したオリジナルな試みである。

まず、単元に入る前に基礎力チェック（資料①）を行う。これは2つの目的がある。

- (1) 教師が生徒の基礎力をチェックし、一人ひとりのスタートラインを知る。
- (2) 生徒自身が自分の知識をチェックし、自分自身がわかっているところとわからないところを確認する。

資料① 基礎力チェック問題例

実施日		HRNO
平成 年 月 日		
問	問題	
1	世界にはいろいろな国のお金(通貨)があります。 下記の国の通貨の名称を答えなさい。 例 日本(円) ① アメリカ ② イギリス ③ ドイツ・フランス等 ④ 中国 ⑤ 韓国	
2	世界の基準になっている通貨を基軸通貨といいますが、その通貨の名称を答えなさい。	
3	1ドル＝120円と1ドル＝115円ではどちらが円高で円安か。	
4	マクドナルドのハンバーガーは世界で売られています。 1個1ドル50セントのハンバーガーを10個買うためには何円必要ですか。現在1ドルは104円とする。 <div style="text-align: center;">  以下省略 </div>	

この資料を集計し、カルテ（個人票）資料②を作成し、生徒と教師がこの情報を共有・認識し、単元に入る。診断的評価をするためではなく、生徒一人

資料② カルテ（個人票）

個人基礎力チェック表

番号	氏名	
10903		
問	解答	コメント
1		1 外国の貨幣についての知識が不十分である。
2		0
3		0
4		1
5		1
正答率		3 60.0%
2		1 外国の貨幣についての知識はある。
3-1		1 経済の基礎知識がわかっている。
3-2		1 経済の基礎知識がわかっている。
4		1 換算の方法を知っている

ひとりのスタートラインを知るものであり評価はしない。単元の学習指導終了後、わからなかったところがわかるようになったかを確認するために確認テストを用い、理解度を評価する。

3. 授業・評価の流れについて

授業と評価の流れは以下の通りである。

○具体例

1. 学習指導要領

例 ビジネスと売買取引
 売買に関する計算

ここでは、分数、小数、百分率、割合などの表示の方法と計算、商品の数量と代価の計算、仕入原価と売価の計算、利益率の計算、売買に必要な度量衡、外国貨幣の計算及び換算について理解させる。なお、計算は演習問題等で慣れさせる程度とし、用具は適切なものを使用させる。

2. 基礎力チェック問題の作成と実践

基礎力チェック表（資料①参照）

3. 基礎力チェック答案の分析と個人カルテの作成

A君の個人カルテ			
売買に関する計算カルテ			
1	外国の貨幣についての知識が不十分である。	正答率	2/5 40%
2	外国の貨幣についての知識が不十分である。		
3	貨幣換算の方法を知らない。		

○授業のポイントの把握

個人ごとの授業をはじめる前の状態を、カルテ表の作成により教師が認識する。

この状況を基本に授業の内容を検討する。

4. 授業の実施

5. 評価物（提出物・確認テスト・定期考査等）によって実現状況の把握と評価をする。実現状況が悪い生徒に対して補完指導する。

6. 学期ごとに評価（評価は担当教師間の協議によって決定）

7. 学期ごとに評価（評価は担当教師間の協議によって決定）

4. 連携はハイパーリンクデータベースで

本校は1学年8クラスで「ビジネス基礎」担当者も8人いる。本来は1週間に1度集まって授業進捗や授業内容の調整などを検討をしなければならぬのだが、校務等の都合により全員が集まれない。また、1時間ごとの資料を紙データとして各先生方に配布するには手間がかかり、まとめて配布すれば見ただけでうんざりされてしまう。いくらよい資料を作っても利用してもらえなければ意味がない。そこで、1時間ごとに必要な授業資料や評価基準等の資料をハイパーリンクで結び、見やすく、利用しやす

資料③ 1時間分の授業資料

平成 年 月 日() ()HR

No. 1

単 元 名	指導内容及び指導上の留意点	観点別学習				評 価 規 準のポイント	生徒の学習活動
		関	思	技	知		
単 元 名 オリエンテーションI	「ビジネス基礎」の授業内容及び評価方法についてのガイダンスを実施する。 項目 (1) シラバスの説明 (2) 学習ノートの取り方 (3) ファイリングの方法 資料の配布と学習方法について説明をする。				○	評価はしない 説明したことが理解でき、指示されたことがきちんと出来たか。 資料を指示どおり整理できたか。 学習ノートに板書事項、説明を正確に記録できたか。	*ビジネス基礎の科目の特徴を理解する。
準備物	ファイル、ノートの書き方資料、ファイリングの方法についての資料						
ポイント	ファイルに綴じるため事前に2穴パンチで資料に穴をあけておく。						
説明事項等	<p>【ビジネス基礎という科目の特徴について説明】</p> <p>I. ビジネス基礎の授業で身につけてほしいことは①商業科目の基礎 ②商業高校で学ぶ意味 ③人生設計④学習の方法 ⑤ビジネスについての心構えです。そのためには、授業だけでは十分ではありません。予習・復習が必要です。</p> <p>II. データは継続的に効率よく整理していかなければ、利用できません。そのために、ノートの取り方、ファイリングの方法を説明します。また、課題演習を行い、その成果を見るために提出物が多いので<u>決められた期限までに要領よくまとめ必ず提出すること。評価の対象になります。</u></p> <p>III. 自分の考えを相手に正確に伝えることはビジネス社会では必要な技術です。そのために、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法を学習します。積極的に取り組んでください。</p> <p>教師用学習内容及び説明資料</p>						

資料のデータベース化を図った。

上記の1時間分の授業資料(資料③)を参照
(下線部がハイパーリンク)

5. 評価方法

学習指導においては教科書の範囲だけでなく、できるだけ生徒自身に関係する身近な出来事や最新のニュース、地域に関係する出来事などを授業資料として作成し利用している。評価するタイミングや内容を前もって教師間で話し合い「評価する時間」と「評価しない時間」を決定し、「評価しない時間」は共通の指導資料はあるが各教師に授業展開を任せる。相互評価の事例を紹介する。

- 事前に相互評価の方法について説明をする。
- 1週間の期間の中で自分が気になった新聞記事に対する自分の意見をまとめ、発表し、その発表に対して選抜された生徒5人が評価する。相互評価表を使用し、評価項目は5項目あり各項目3, 2, 1点で評価する。
- 4つの観点全てで評価できないので、この事例の場合は「関心・意欲・態度」の評価とした。
- 5人の評価点を集計し、A, B, Cに換算し教材等評価基準表(資料④)を参照し、5, 3, 0

点に評価する。

5, 3, 0点の評点は0点になったものが再チャレンジすることを意識し、本人が頑張ったり教師の補完指導によりある条件を満たした時、2点にする。また、授業時に評価をすることがあまりできなかったので、考查問題を4つの観点別で構成し、出題した。(資料⑤ 観点別出題例参照)

考查問題において観点別問題を作成するとき留意すべきは「関心・意欲・態度」である。

資料④ 教材等評価基準表の一部

教材等	評価A 自主的に取り組み、積極的である。 復習・予習等の履歴がある。	評価B 関心を持っている。 提出期限を守った。 必要な部分はすべて記入している。	評価Cおよび対処 提出期限を守らなかった。 注意・指摘・指導して条件に合えばBとする
5点 1回分ではなく平均をとる場合もある	3点 1回分ではなく平均をとる場合もある	0点だが 条件を満たせば2点	
ファイル 共通評価 考前チェック	効率よく資料等の整理ができている。	資料等はすべてある。整理ができている。	資料等が不十分である。整理ができている。
自己評価集計表 共通評価 考前チェック	見やすく、必要な項目はすべて記入でき処理が正確である。	提出期限を守った。 必要項目はすべて記入できている。	記入漏れ、提出期限が守れなかった。
サマリー 共通評価 回数やれば平均を評価とする	話の内容を適切にわかりやすく要領よくまとめている。	提出期限を守った。 キーワード、メモが書けている。	提出期限が守れなかった。 漢字の間違いが多い。 キーワード、メモが十分書けていない
課題研究ノート 教師裁量分	具体的にわかりやすくまとめであり、見やすく自分の意見に筋が通っている。	提出期限を守った。 書いてあることに矛盾があり、読みにくい点がある。	漢字の間違いが多い。 提出期限が守れなかった。
質問ノート 教師裁量分	積極的な質問が多く、自分で学習した形跡がある。	質問票を提出している。	1度も質問票を提出していない。

資料⑤ 観点別出題例

1. 新会社法が平成17年6月29日に可決成立し、平成18年4月から施行予定となっています。この新会社法によって従来とどこが変わったのか。変わった点を3つ以上あげなさい。(思考・判断)

4. 課題研究について自分が調べてきたことを記述しなさい。

(関心・意欲・態度)

日本において株式会社の経営のトップは一般的には代表取締役社長ですが、最近、日産自動車やユニクロ、ソニー、三洋電機等の株式会社ではCEOやCOOという役職が新聞によく出てきます。

「CEOやCOOとは何か、また株式会社においてどんな役割を果たしているのかを調べ、中間考査の答案用紙に書いてください。関心・意欲・態度の観点で評価します。ただし、資料の持ち込みは禁じます。」

どうしても上記のような記述式の問題になるので、採点に差ができやすく、評価基準を担当教師の間で十分に共通理解しておくべきである。

4の問題の評価基準は以下のとおりである。

○期末考査の採点

得点は100点満点とする。各観点ごとに集計する。

関心・意欲・態度 10点

7の箇所 100字以上理由が書けていたら 5点 基準点
理由が納得できたら 3点 (1~3)
教師裁量 2点 (0~2)
10点

減点 100字以上かけていない 0点
誤字・意味不明 各1点

6. 観点別学習状況の評価から評定への総括

評価期間を5回(1学期中間、1学期期末、2学期中間、2学期期末、3学期期末)に分け、観点別に各々評価し、最後にこの5回をまとめて評定する。(資料⑥評価と評定の総括表)

このようにした理由は、1学期中間と1学期期末の平均をとり1学期期末の評価を出す従来の方法では、中間でよい評価を取ると期末で下がっても平均をとるので本人が努力しなかったという自覚が薄く、また逆に中間が悪かったものは頑張っても平均点だと結果が見えにくく、やる気をなくす傾向にあるためである。

この評価の方法は1学期の初めのオリエンテーションで次のように説明する。

「中間で悪くても期末は平均点で評価はしません。評価はそのつど評価します。サボった人はサボったように、頑張った人は頑張った分、評価します。」

資料⑥ 評価と評定の総括表

評価と評定の総括表

A君の場合

		評価と評定								個別評価			
		関心	思考	技能	知識								
		A	3	A	3	A	3	B	2	A	3	B	2
1	中間	A	3	A	3	A	3	B	2	B	45	4	
	期末	A	3	B	2	B	2	B	2				
2	中間	B	2	A	3	B	2	B	2	C	1		
	期末	B	2	B	2	B	2	B	2				
3	学年末	B	2	B	2	B	2	B	2	B	45	4	
	合計	B	12	B	12	B	11	B	10				
		15		15		15		15		60点			
		5段階											
60点		60	48	5	A								
80%		47	36	4	B								
60%		35	24	3	B								
40%		23	21	2	C								
35%		0	20	1	C								

7. おわりに

わたしたち教師に求められているものは、学習指導要領のねらいでもある自ら学び、自ら考える力、すなわち「生きる力」の育成である。ところが、現実の学校では生徒たちが「教えられている」形をとっている。自ら学ぶことなく、一方的に学ばされている状況である。

新しい評価(観点別評価)による学習実現状況を把握するための研究・実践の結果を通じて私が学んだことは、今までやってきた自分の授業を振り返り、まさに1時間1時間の授業の大切さを痛感し、教師はもっと勉強しなければいけないということである。子供のときに感じた「なぜ」「どうして」という素朴な感情から出発し、その疑問が解明されたときの満足感を教師と生徒が共有するような授業をすることが、一人ひとりの生徒に「生きる力」を身につけていくことになる。

個人的な考えや実践報告でまとまりのない文章になったが、諸先生方のご意見やご指導をいただければ幸いである。

最後に、このような紙面に掲載させていただいたことに深く感謝申し上げます。